

### 初期臨床研修医 呑村 顕

初期研修医2年目の呑村顕です。第76回国立病院総合医学会にて「ベストポスター賞」を受賞する事が出来ましたのでご報告いたします。

私が発表したのは、「ウシ心膜を用いて肺動脈形成を行った左上葉肺がんの1切除例」という演題です。肺がんは「肺動脈」の根元に噛みこんでいると、片方の肺をすべて取り除く「片肺全摘手術」となってしまう場合があります。そこで少しでも肺の切除範囲を縮小するため、腫瘍が噛みこんだ部分の肺動脈を切り取り、様々な素材を用いて欠けた肺動脈を形成する手術が試みられています。私が発表したのは、その素材にウシ心膜を用いた症例でした。ウシ

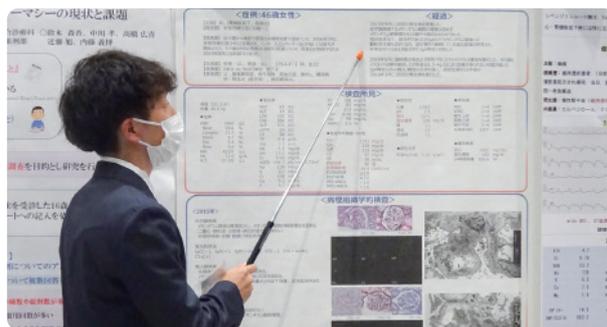
心膜は呼吸器外科領域で使用されることが少なく、有用な発表が出来たように思います。ご多忙のなか時間を顧みずご指導いただきました、当院呼吸器科・心臓血管外科・放射線科・病理診断科の先生方にこの場をお借りして改めて御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。



### 初期臨床研修医 椎野 裕登

東広島医療センターの初期臨床研修医1年目の椎野と申します。今年の10月に熊本で開催されました国立病院総合医学会で多発性硬化症に対するインターフェロンβ-1b投与中にネフローゼレンジの蛋白尿を呈した一例について発表させていただき、優秀賞を受賞致しました。指導医を引き受けてくださった腎臓内科の先生方をはじめ、多くの方のお力添えが受賞に繋がったものと思っております。症例

発表等の機会は多々あると思いますが、今回の経験を胸に刻み、今後も邁進して参ります。



### 臨床工学技士 新井 翔太

10月7日～8日に熊本で行われた第76回国立病院総合医学会に参加させて頂きました。

私は「アブレーション治療におけるノイズ対策への取り組み」について発表させていただきました。不整脈治療の1つであるアブレーションはカテーテルから得られる微細な電気信号を診断に用いますが、混入してくるノイズは正確な治療の妨げになります。当院のカテ室においても対策を講じているにもかかわらず、長い間ノイズに悩まされていました。今回、絶縁トランス装置を使用することでノイズを低減させることができましたので、その内容について紹介させていただきました。この取り組みが評価されベストオーラル賞を受賞できました。症例を通じ、多くの方々の協力による数多くのデータの収集・

仮説の検証がこの結果につながったのだと思います。

ご多忙の中、ご指導いただきました城先生をはじめ、ご協力をいただきました皆様には心から感謝申し上げます。学会のテーマでもある「『選ばれる』臨床工学技士」について考え、目まぐるしく変化する医療に対応できるように研鑽を重ねていきたいと思える良い学会参加でした。

